

企業行動研究部会（#332）議事録

日時：2024年5月13日（月）18:00～20:00

場所：リモート会議

参加者（15名）

省略

◎事務局連絡

1. 2024年度JABES第32回研究発表大会のご案内

- ・日時：2024年6月29日（土）10:20～17:30
2024年6月30日（日）9:30～13:15
- ・会場：関西大学高槻ミューズキャンパス 大阪府高槻市白梅町7-1
（最寄り駅 JR 京都線高槻駅徒歩数分）

2. 今後の発表予定について

- 6月10日 小林製薬の問題（仮題）発表：出口順輔会員
- 7月8日 未定 論文形式である必要はありません。形式は問いませんので
- 8月19日 未定 皆様の疑問やご意見、問題提示等を是非お願いいたします。
- 9月9日 未定 部会長 or 幹事まで、随時ご連絡いただければ幸いです。
- 10月21日 未定 お待ちしております！（11月以降も同様です）

◎研究発表

テーマ：「中国を巡る地政学と台湾有事」

発表：向井恒泰会員

概要：

- 1 いまなぜ中国
 - ・北京の人からみた世界・北京の人から見た日本台湾アジアの紹介
 - ・中国各省の経済規模と各国の比較(広東省で世界12位 江蘇省13位この二省合計でインドを上回る)
- 2 中国を巡る地政学
 - ・3つの理論(米マハン/シーパワー理論・英マッキンダー/ハートランド理論・リムランド理論)
 - ・梅棹忠雄文明の生態史観(西欧と日本はユーラシアの東端と西端でそれぞれ民主主義、ユーラシア大陸中心部は草原乾燥地域で古来より遊牧民の専制性、第二地域周辺であるロシア・中国もその影響を受け専制的)
 - ・中国は大陸国家から海洋国家をめざしシーパワー強化を急ぎおり、シーパワーの台湾・日本とぶつかる
- 3 台湾と中国
 - ・台湾世論は現状維持派が90%、中国側は独立なら侵攻？5月20日就任の台湾民進党頼総統がどのような方針か注視
 - ・台湾政治大学台湾人アイデンティティー意識調査では2000年以降「台湾人」意識が6割以上
 - ・台湾・中国・インドの比較 台湾の対日貿易額はインドの対日貿易額より多い・日本企業としての有事対策 サプライチェーンや事業ポートフォリオ見直し
 - ・PWC2022年日本企業調査(海外事業を有する年商100億円超企業の管理職へのネット調査)では台湾有事懸念は7割、地政学リスクマネジメント重要性認識は高いが具体的対策は検討していないが46%

以上、梅沢忠夫氏の文明の生態史観を踏まえた解説や、ビジネス視点によるリスクとチャンス等の発表が行われました。

○意見交換・質疑応答（抜粋）

- 中国人の認識として台湾有事が起こる vs 起こらないとある中で、中国側の怒らないという認識者が30%近くいるが、この認識はどこからきているか？ ➡ 詳細はわからないが、習近平が中華人民の夢という観点から、その地位を回復するといった考えを表している。オバマ氏との会談で地球二分構想があったが、この意図はどの様なものなのか？ ➡ 中国上層部の考えとしては十分あり得る。ランドパワーのみならず、シーパワーを行使したい考え。中国は列強国家になった認識がある。弱者の中国時代から列強となった現在、弱者の時代に強権を発せられた仕返しとして、現在の行動作用として現れている。経済の重要性と民度の問題があるが、習近平に正しい情報が入っているのか甚だ疑問がある。北京上海等の意識は80年台のそれとはかなり違っている（所得の観点から生活水準が高まっている）。対日本についても同様。
- 当局と国民の認識のずれがかなりあるのではないかと？ 逆に孤立化させることで軍事力に訴えることのリスクは高くないか？ ➡ 中国人にも賢者がいるので、一歩的な観点からの政策がないことを望みたいと考えている。
- 中国といえども地域格差がかなりあるのではないかと？ 経済、知識、認識然り。
- 現在中国では、名門大学を出ても良い就職口がなく、そういった意味で海外へ大々的に進出し始めている（特に日本）。月の仕送りが40万60万といったレベル。お年玉が100万円程度も多く見受けられる。日本のタワーマンションを見ても上海や浦北京の方がすごいといった認識は当たり前になっている。現在日本は買い物天国といった認識で見られている。
- 中国内での言論統制の実態を知りたい。 ➡ 大変厳しい状態。大勢に反するものは即座に統制されている。wechat や line については、チェックされている可能性が高い。現在中国に出張することには驚異がある。日本では想像できないレベルの言論統制が行われている。許可を得ないと該当でのアンケート調査は不可能。資料で提供した調査はどの様に行われたのか不明。容易にアンケートに答えることも避けている状況。
- 日本人が思っているより現在の中国人は裕福な人が多い。日本の中堅層でもマンションを複数所有していることが多い。中国人が現在日本に50~60万人ほどいる（79万人 by net）と想定される（許可ベース）。日本に来ている中国人間のネットワークがとても発達している。20年前に比べると経済的自信が雲泥の差で高まっている。味方や金の使い方まで全く異なっていると言える。
- どうして戦闘体制となっているか、地政学的観点からその緊張感の意味が理解できた。最近台湾の総統選挙の折、さまざまな妨害があった様だが、結局...
- 中国と台湾の民間人の交流はどの程度あるのか？
- 日本に対しての中国人の感情（反日教育による被害者意識の教育）の実態はどうか？ 歴史観の違い等からその実態を知りたい。 ➡ 人により認識の違いがあると考えている。高齢者であるほど心の蟠りがあると考えている。80年代に機械販売時をしている折、日本は戦時賠償をしていないと言われたことがある。現在は70~80歳ぐらいの方。一方若い中国人は実際に日本人と接する人は、実存主義と過去の話に分けて考えていると感じている。ただ、領土問題等になると、中国寄りに態度は硬化することが多く見られる。今現在の日本人に対する認識は変わってきている。
- 中国本土のさまざまなリスクを10年後まで一党独裁の継続性はどうか？ また、南太平洋問題における覇権問題、対策をいかに考えれば良いのか？ ➡ 政治的に日本としていかに対応するかは言及できない。地政学的観点から考えれば、どこかの段階では持続すると考えられる。三民主義の観点から孫文は選民主義的な思考があるが、権威主義的なところは否めない。ただ、台湾に関しては相当が民進になり台湾の世論を大事にするところが出ている。
- ランドパワーというよりシーパワー？ 今後10年ほどは権威主義は否めない。南シナ海における覇権問題は、外交手段として民間外交のルートとして現地から日本に多くの人を招き入れ、日本の良さや日本の実態を見てもらい、帝国主義の日本ではないことを理解してもらいた

いと考えている。中国人に多く日本に来ていただき、南アジアや南シナ海に侵攻しないよう理解をいただきたいと考えている。

- ロシア、中国、北朝鮮の不安な時代は長く続くようだ。特に中国はコロナによる中国支援が共産主義体制の成功に自信を持っている。習近平の信念として台湾併合を目指しているため、難しい動きが考えられる。毛沢東思想と大変似た状況に今の中国はある。
- 中国で仕事をすることに不安を感じているビジネスマンが多いのでは思っている。中国に行って仕事をするのは驚異があると思っている人が多いのではないか？ ➡中国で日本人が拘束されているが、その実態理由は全くわからない。スパイ防止法に関わっていると知っている。普段の経済活動であれば問題はないと知っている。が、変に写真等を撮るとマークされる場合がある。日本人が無防備であるとも言え、軍事的機密的な意味合いは日本と異なり手厳しいという前提を持って行動することが求められる。
- 天安門事件のことを現在の学生たちは知らない知っているが…。事件があったこと自体歴史の教科書には記載されていないと思われる。
- 金門島と中国の距離はとても近いが、中国側からの視点はどうか？ 中国としては非常時にはいつでもスクランブルがかけられる状態を確保できているため、態々軍事を行使して侵略せずともいつでもできるといった自信を有していると考ええる。
- 中国人と韓国人と台湾人の対日環境の違いは？ 違いが起こる原因はどこにあるのか？ ➡中国と韓国はランドパワー、台湾はシーパワーの国。日本のシーパワーと台湾のそれとはあい入れやすいと考えられる。
- 中国の東北部の対日感情の違いは？（大連、瀋陽など）一般的には親日的。吉林省の方は日本語が堪能。ただし喧嘩っ早いと言われている。

以上